カンファレンス

≪菅原久美子様≫

日常生活では全介助が必要ですが、状態としては落ち着いて過ごされているようです。

状態を考えると起立訓練など積極的なリハビリは難しいと思われます。

そのため、体調に合わせて離床し、少しでも車椅子に座る時間を作る必要があると思います。また、介助時や車椅子座位中などにお声掛けがあると認知面への刺激にもなると考えています。

今後も現状を維持していきたいと思います。

≪二位恵美子様≫

積極的なリハビリは難しい状態と思われますが、ベッドと車椅子の移乗時、起き上がった時にベッドサイドで端坐位になれればと考えています。時間としては3~5分間程度座って頂きたいと思います。その日の体調もみながら取り組んで頂ければと思います。

また、トイレ介助時には動作協力のお声掛けも継続して頂ければと思います。

今後も日常生活の中でリハビリを行ない、現状を維持していきたいと考えています。

≪松尾フミヨ様≫

歩行状態を確認させて頂きましたが、本日は覚醒状態も良く、歩行は安定していました。本日ぐらい覚醒状態も良く、体調が良ければ短距離での歩行訓練は可能と思います。歩行する場合、介助者は本人様の後方に立ち、膝折れや足が引っかかるなどしてバランスを崩されても介助できるように見守る必要があります。歩行が難しい場合や歩行介助に不安がある場合は手すりなどを使用した起立訓練でも良いと思います。回数については体調をみながら5～10回程度行なって頂ければと思います。

≪松尾ヒサ子様≫

本日の歩行状態は良く、方向転換時も少しの誘導にて可能でした。それでも体調が良い日悪い日があるとのことで、介助量もはっきりしないため、歩行はしばらく中止しておいた方が良いと思います。そのため、手すりを使用した起立訓練に取り組んで頂ければと思います。回数に関しては5～10回程度、可能な範囲で実施して頂ければと思います。

≪原口聡様≫

股関節の開きが硬いとのことで、太ももの間にクッションを入れて対応して頂きたいと思いますが、本人様が好まれないとのことでした。オムツ交換時や体位変換時、車椅子に座られてリビングにいらっしゃる時などに太ももの内側をマッサージして筋肉を肩もみのようにもみほぐすのも一つの方法かと思います。時間としては職員さんの時間の範囲でお願いします。

≪溝上ハルエ様≫

膝関節の運動方法を動画にも撮っていますのでご確認ください。

動画では膝の裏にタオルと手を置いて、それを膝の裏で押して頂く方法をとっています。

下記の写真の方法は手を使用せずにタオルのみを押して頂く方法です。

いずれの方法も運動は一緒ですが、本人様がタオルを押す感覚が分かりにくく、上手に膝を伸ばせずに運動ができにくいようであれば手も一緒に使用する方法が良いと思います。

手を使用する場合は膝の裏から膝上(本人様が膝を伸ばす方向と反対側)に抵抗を加えることで、本人様が力を加える方向が分かりやい場合があります。

「膝の裏で手を押して下さい」などと指示すると良いと思います。



膝の下にバスタオルを丸めて置きます。膝を伸ばしながら膝の裏でタオルをしっかり押し込みます。同時につま先をしっかり上に向けます(背屈させる)。この状態を10秒保持する。10秒×10回できれば良いと思います。病院の先生は一日3回と言われていましたが、できる範囲で良いと思います。また、膝を伸ばした時に膝の内側が硬くなっているかを確認する。力が入っていれば硬くなります。

